

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型支援施設 あゆみ園		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 1月 22日		～ 2026年 2月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との伝達ツールが複数ある。	自宅への送迎を行っていないので、お迎えに来られた時に、顔を合わせて今日のできごとをお話できたり、相談がある時には時間をとることができる。連絡帳で自宅の様子や事業所での様子を伝えあうことができる。LINEを使い、利用の確認や、プリントの配布の代わりに行事等のお知らせができるようになった。	園だよりを使い、事業所での様子だけでなく、職員研修(事業所見学等)で得た情報を載せることがある。令和8年度からは連絡帳記入の負担を減らすため、項目をシンプルなものに変更する。
2	希望がある場合は8時～18時まで利用することができる。土曜日、祝日も営業している。(R7年4月から日曜日は休業)	お仕事をされている保護者の方や、兄弟児の用事で土曜祝日や長い時間の預かり希望がある方に、安心してご利用いただけるよう営業時間を延ばして対応している。	外食体験をする企画を行なうことで、保護者に頼らずに買い物をする機会を設けることができた。休日を有効的に使い、将来のためになるような企画をこれからも行っていきたい。現在土曜日の希望者が少なく、希望が集まらない時は休業になってしまっている。要望を叶えられるよう営業について考えていきたい。
3	生活介護と併設している。	将来の進路先に生活介護を考えている方は、慣れるために放デイから利用を始める方がいる。空き状況や、他の利用者様との相性にもより、確実に生活介護へ進むことができるわけではないが、場に慣れるきっかけになっている。・生活介護の看護師に発作時や体調不良、ケガの時に診てもらえるので安心。	実習前に生活介護の職員が放デイの様子を見学できたり、気をつける点等、情報共有することができる。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋数が少ない。個室がない。	主に過ごす学習室の他に、相談室、食堂、生活介護の休業日には作業室が使えるが、相談室や食堂は必ず使いたいときに使えるわけではないので、急きよ分けたいときに難しいことがある。バギーから降りて過ごしたい児童は、人数が多い時には床で過ごすことが難しい時がある。	宿題の時間をおやつ後に統一することで、子どもたちが集中できるとともに、送迎時間に最低限の職員で見守りできるよう改善し始めた。様子を見てその時々にあった動きができるよう、職員が臨機応変に動けるようになるべき。
2	駐車場が少ない。駐車場に屋根がない。	スロープ等のバリアフリーはできているが、保護者の方の駐車場や車まで向かう間に屋根がないので、車イスやバギー等、乗り降りに時間がかかる方は不便。	職員の手が空いている時にはお手伝いできるが、毎回できるわけではないので申し訳ないと感じる。大雨の時に焦って事故が起きないように、落ち着いて対応していきたい。
3	土日の営業ができていない。	開所当時から土日の営業をしてきたが、R7年度から希望者が減り、土日の営業が思うようになっていない。	少人数の希望者でも営業ができる方法を考えていく。空き部屋の貸し出しや、生活介護の利用者様にも土日利用の希望者がいないか等。